

# 先輩に続け

## …… 徳島大学を卒業して大学教員になる

福山大学 薬学部  
**重永章** (しげながあきら)

### 自己紹介

私は徳島大学で博士(薬学)の学位を取得後、米国で博士研究員をしたのち教務員として徳島大学に戻り、助教および講師を経て2020年より福山大学薬学部への教授をしています。本誌の読者の中には将来ある若い方が多くおられると思います。そのような皆様自身の将来を考える上で、本稿が何らかのヒントになれば幸いです。

### なぜ大学教員になったのか？

唐突ですが、皆様は推理小説を讀みますか？私は「横溝正史とアガサ・クリスティーが薬学関係者のだから薬学部へ行くしかない」と思つて進路を決めたくらい、推理小説をよく讀みます。推理小説には様々な探偵が登場します。彼らの仕事は証拠を集めて推理し、犯人を指摘することです。研究者の仕事もほぼ同じです。実験結果を整理して考察し、新しいものごとを發見します。しかも探偵と違い、成果は人類の役に立つかもしれない。さらに、探偵は犯人が作った

作品(?)の解説者にすぎませんが、研究者はこれまでになかったものを發明することも可能です。そう考えると、研究者というのは推理小説好きにとつて天職だと思つたのが、私がこの職を目指したきっかけです。このような自由すぎる理由で研究者になろうと思つたわけですから研究内容も自分で決めたいと思ひ、企業研究者より比較的自由度の高い大学教員になることを決意しました。

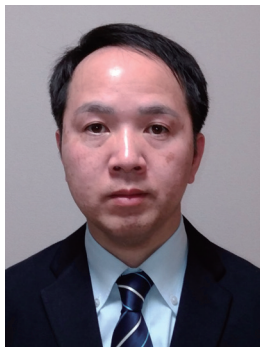
### 大学教員の仕事とやりがい

大学教員になると研究を堪能できたのは予測通りでしたが、それ以外にも多くの仕事があることを知りました。講義や研究室の管理に加え、大学や学部の運営、入試の作題、研究費獲得から発注や事務書類の作成まで、内容は多岐にわたります。研究・教育以外の業務にもかなりの時間と労力を割くことになりましたが、多くの仕事は学生がよりよい教育を受け、研究に没頭するための環境を整えることにつながると信じています。その結果として研究の楽しさを共有できる学生が育つかもしいれないと

考えると、大学教員とは単に研究を堪能できるだけではなく、その楽しさを次世代に伝え、さらに自身を越える人材を育てることも可能な、非常にやりがいのある仕事だと思つています。ちなみに私が徳島大学から転出する際、当時上司だった大高章先生より「人を育てなさい」とのお言葉をいただきました。大学教員とは単に研究・教育などの業務を漫然と行うのではなく、それらを通して人を育てることこそが使命なのだ、ようやく最近分かってきた気がしています。

### 読者へのメッセージ

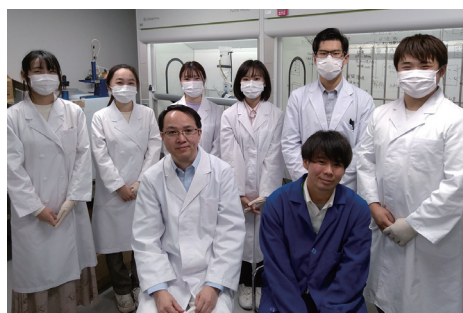
本稿では私が大学教員になった経緯と仕事内容、やりがいについて紹介しました。私は、読者全員に大学教員を目指して欲しいと思つているわけではありません。私が願うのは、ぜひ若いうちにいろいろな人の話を聞き本を讀み、将来何になりたいかをよく考え、その夢を実現して欲しいということです。本雑文がそのきっかけになれば望外の幸せです。



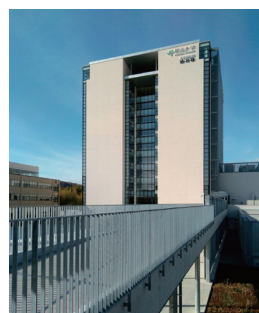
職業) 福山大学薬学部薬学科 教授  
略歴) 1999年 徳島大学薬学部製薬化学科 卒業  
2004年 同大学大学院薬学研究科博士後期課程 修了  
2004年 スクリプス研究所化学科 博士研究員  
2005年 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 教務員  
2007年 同 助教  
2013年 同 講師  
2015年 徳島大学大学院医歯薬学研究部 講師  
(改組に伴う所属名称の変更)  
2020年 福山大学薬学部薬学科 教授  
現在に至る。この間、2012~2015年 JSTさきがけ研究者



実験室



新配属生らとの集合写真



当研究室は10階にあります